



## 大学院医学研究院 岩立康男教授の最終講義が行われました

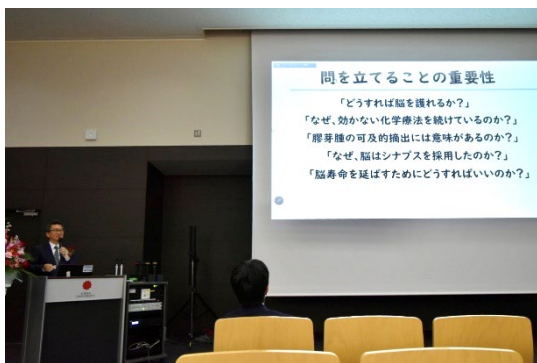
令和5年3月をもって退職される大学院医学研究院 岩立康男教授（脳神経外科学）の最終講義が、3月22日（水）に医学部附属病院ガーネットホールにて行われました。当日は本学の教職員・学生、学外からの来場者に加え、オンライン参加者を含めた約300名が聴講しました。

岩立教授は昭和58年に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学医学部脳神経外科に入局、千葉県がんセンター等での勤務を経て、平成7年より千葉大学医学部の教職に就任され、以来28年間にわたり脳神経外科学の研究活動・発展に大きくご貢献されました。特に、脳腫瘍の治療法向上に努められ、脳腫瘍に対するワクチン療法やグリオーマ治療と正常グリア細胞の関連等をテーマに最先端の臨床・研究に貢献されました。

最終講義は、松原医学研究院長からのご挨拶の後、演題『脳の原理』として、岩立教授が長年ご尽力されてきた「どうすれば脳は脳腫瘍を拒絶できるのか」といった研究の成果や、「脳を知りたい」という目標から「どうすれば脳を護れるか?」といった問に対して、あらゆる角度からアプローチされたご経験について語られました。

講義終了後は、中山学長からの祝辞に続き、横手附属病院長よりご挨拶があり、院内の様々なネットワークを活用しながら医師の働き方改革にご尽力されたご活躍を振り返られました。その後、学生代表謝辞として、スカラシップ・ベーシックプログラムで脳神経外科教室に所属する医学部2年の学生から感謝の言葉が送られ、研究熱心で学生の探求心に真摯に向き合う岩立教授の姿が伝えられました。また、附属病院臨床栄養部の職員をはじめとする8名の方々から、感謝の気持ちを込めて花束が手渡されました。

岩立教授は、令和5年4月より東千葉メディカルセンターにて、引き続き研究活動および後進のご指導を賜ります。岩立教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。



最終講義の様子



最終講義の様子



松原医学研究院長のご挨拶



脳神経外科学所属の医学部学生と